

令和4年8月19日（金）



22日間の夏休みを終え、本日から85日間の長い2学期がようやくスタートしました。始業式の校長の話では、手ノ子小学校の植物たちが夏休みもぐんぐん成長した一方で、8月3日の豪雨より、県内の農作物の被害が3600ヘクタールにも及んだという山形新聞朝刊の記事に触れました。そして、SDGs未来都市の飯豊町が、今回の豪雨でどのような被害にあったのか、新聞記事をとおして振り返り、SDGsとつなげて考える学習（NIE「教育に新聞を」）をしました。

学習のまとめとして、「身の回りの出来事をSDGsとつなげて考え、友だちと話し合うことで、いろいろな考え方の人と共に幸せに生きる社会を実現できるようになる」ということを伝えました。学校にはいろいろな個性をもつ人がいます。自分の考えと違う考え方の人の立場を想像することが大切です。弱い立場の人、少数の人、自分とは正反対の人の意見を受け止められるようになります。

近年はSNSの登場により、写真や音など体感的な表現や、より短いメッセージでコミュニケーションができるようになりました。また、AIのアルゴリズムにより、興味がある自分に都合のいい情報が簡単に手に入るようになりました。これにより、自分に都合のいい安易な判断をしてしまい、極端な考えの方向に進んでしまいがちです。偏った考え方をしていると、自分と違った考え方の人を排除したり無視したりするようになり、対立や紛争を生む分断された社会を実現してしまうことになってしまうかもしれません。

子どもたちには、栄養のバランスが取れた給食同様、自分の考えと違う考え方の人と協働的に学ぶことで、バランスのよい思考力・判断力を身に付けていくことを願っています。

太陽に向かってぐんぐん成長する玄関脇の「2022 ひまわりのせいぐらべ」のヒマワリは、最高で約3m80cmまで草丈を伸ばしています。風雨で倒れぬようそっと支える支柱のように、2学期も、15名の子ども達を、8名の教職員全員で支えていきたいと思ひます。

令和4年8月26日（金）



本日は今年度2回目の避難訓練を清掃時に予告なしで実施しました。

校長の話では、まず、9月1日が何の日か、防災の日と制定されたのはなぜかについて子どもたちに問いかけました。今から99年前の1923年（大正12年）、関東地方にマグニチュード7.9の大地震が発生しました。この大地震とその後の火災により、約10万5千人というこれまでで最も多くの死者、行方不明者が出ました。「関東大震災」と言われているこの災害を教訓にして、1960年に制定されたのが防災の日です。この時期に全国的に防災訓練など防災に関する行事が行われ、ニュースや新聞などでもよく見かけるようになるのは、災害への心構えを忘れないようにするためだということも伝えました。

日本は、地震をはじめ、台風や津波、洪水といった自然災害の発生が多い国です。子どもたちも、夏休み中に置賜地方の豪雨災害を経験しました。このような災害の中では、何よりも学校の合言葉の【い】命を大切にすることが最優先だということを改めて確認しました。そして日頃から、状況に応じて自分の身を自分で守るための行動を考えておくことが必要だということも指導しました。

本日の避難訓練は、「もし、授業中ではなく、近くに担任の先生がいなかったら」「もし、停電になって、放送が使えなかったら」という場合を想定しての避難訓練でした。その時自分は、周りの状況を見てどのようなことに気づき、どう考え、どんな行動をとることができたか、子どもたち一人一人にしっかりと振り返るように指導しました。

また、「もし、家にいる時地震が起きたら」「もし、車に乗っている時地震が起きたら」「もし、高い建物が並ぶ街中にある時地震が起きたら」「もし、山や川の近くにいる時地震が起きたら」といったいろいろな状況を想像して、お家の人と防災についてぜひ話し合ってもらいたいということも伝えました。

校長の話の後、教頭からも、阪神淡路大震災が起きた瞬間のコンビニエンスストアの防犯カメラの映像を流しながら、「大地震のほとんどは、学校にいる時以外で起きている」ということを子どもたちに伝えてもらいました。

令和4年8月29日（月）



今週からいよいよ運動会特別時間割が開始されました。毎週2時間目に体育を行う他、放課後には赤白に分かれての係活動も行っています。

本日の昼休みの時間を火曜日と交換し、体育館で運動会結団式を行いました。校長の話では、全校生15名が、赤組8名、白組7名に分かれて競い合うということで、昨年度以上に一人一人の頑張りが勝敗に大きく左右するということを話しました。特に頑張ることとして、以下の3つについて話しました。

1つ目は、病気や怪我、体調不良で誰一人欠けることなく、これから2週間の練習や準備を全員で取り組もうということです。そのために、はつらつがんばり週間にある生活リズムを整えること、「無理の先に道がある」と自分の力や組の仲間の力を信じて、あきらめずに取り組んでいこうと励ましました。

2番目に、100m走の自分の目標記録を更新できるように、できるだけたくさん走ろうということです。そのために、ドリルトレーニングや速く走るためのポイントや裏技を試しながら、ストップウォッチを持つてのタイム計測を毎日複数回行ったり、リレーのバトンパスの練習にペアで取り組んだりすることを、「『やればできる』ではなく、『やらなきゃできない』」と思って、何度も繰り返しやってみようと思ましました。

3番目に、自分を、そして組の仲間を元気付けるられるよう、明るく澁漑とした声を出して活動を盛り上げていこうということです。そのために、表現部の係活動は勿論のこと、朝の100m走やリレー練習、体育の時間も、「元気は出るものではなく出すもの」と思って、自分から進んで、仲間の頑張りをほめる元気な声かけをしていこうと励ましました。

今年度は、Withコロナの運動会ということで、感染予防対策を施しながら、制限はあるものの、町や地域から来賓をお招きしての運動会を3年ぶりに開催します。8月の豪雨災害で多くの被害を受けた飯豊町の未来を担う子どもたちが、少ない人数でもがってしないで生き生きと運動会に取り組む姿をお見せしたいと思います。